

北空知地区の研修活動のとりくみ ～学ぶことはとりくみの第一歩～

深川市立深川小学校
亀井 隆史

1. はじめに

空知北地区協議会では、2008年から2年間の管内事務研での研究発表に向け「子どもアンケート」や「保護者向け事務だより」「2本立て運営計画の見直し」などのとりくみをすすめてきました。2年間の発表の翌年は、全道事務研でも研発をし、中身の濃い研修・研究の日々を過ごしてきました。

その後は中心人物の異動や退職によるメンバーチェンジおよび全道事務研までの3年間での燃え尽き症候群的なものがあり、新たなテーマでの研究体制を模索していました。

しかし私たちの原点としては、研究発表のための研修を目指しているわけではなく、毎回の研修会での学び合い・交流の積み重ねがそれぞれのとりくみの原動力となると信じ、今回の研発に向けてレポート検討委員会という体制は敢えて組まず、普段のありのままの研修・どのような研修をすすめてきたのかを紹介する内容としました。

北地区は深川市・沼田町・秩父別町・北竜町・妹背牛町・雨竜町の財政基盤や人口が異なる1市5町から構成されています。

どこの地域でも共通することかもしれませんが、近年定年退職とともに新採用者の増加により、平均年齢が急激に若年化しつつあります。

年齢層や経験年数の違い、職務の範囲や取り組み状況に温度差があることもありますが、人員異動による協議会の活性化、を目指して日々研修にとりくむことを意識しています。

2. 2014年度の研修の様子

研修テーマ「学校事務の深化・発展をめざして」

～財政財務の確立に向けたそれぞれからのアプローチ～

研修内容

回	期日	主な研修内容	開催地
総会	4月24日	北地区総会 研発レポートの 基本確認	深川市
1	5月22日	年間計画策定 日常とりくみ交流	深川市
2	6月26日	管内研報告・反省 レポートの課題交流	北竜町
3	8月5日	夏季一日研 実務交流、他	妹背牛町
4	8月29日	レポートの課題整理 日常実践交流	秩父別町
5	10月16日	レポート検討 予算要望資料交流	沼田町
6	12月12日	レポート検討 予算要望資料交流	深川市
7	1月9日	冬季一日研 予算要望資料交流	深川市
8	2月19日	レポート最終まとめ 課題の整理	深川市

時刻は14:30～17:00（一日研は9:00～）
会場は北地区内の施設を利用。

その年の管内研の発表が当たっているが、会員各自から色々な観点から予算要望・配当予算などについての実践を持ち寄り、交流・検討しながらとりくみを積み重ねたレポートとすることを確認。主なテーマを「財政財務の確立に向けたそれぞれからのアプローチ」として、地区によっては財務、情報、連携といったグループで討議するところもありますが、そういった班分けもせず、会員各自が取り組んだ内容が周りの会員へ広がり、各自が自校に持ち帰り、日常の学校事務につながるための研修会を意識しました。

グループ分けによる息が詰まる感や重圧が少ないことが功を奏したためか、参加率は毎回100%近く、毎回資料提供も多く出されました。予算要望書のとりくみでは10月と12月の研修会では時間が足りず、冬季の一日研修会でも引き続いて話題としました。一方で、資料や実践部分は提供をしてくれる方が固定化する傾向があり、この部分は課題でもありました。

学ぶことがとりくみの第一歩ということで目指すものが若干わかりづらい管内研の分科会となった感があり、一歩目はまだ学び足りなかったのかもしれませんが。

3. 2015年度の研修の様子

研修テーマ「学校事務の深化・発展をめざし

て」
 ～財政財務の確立に向けたそれぞれからのアプローチ～
 研修内容

回	期日	主な研修内容	開催地
総会	4月23日	北地区総会 研究レポートについて	深川市
1	5月22日	年間計画策定 日常実践の交流	深川市
2	6月25日	管内研反省 実践レポートの交流	深川市
3	8月4日	夏季一日研 実務交流、他	深川市
4	8月27日	レポートの課題整理 日常実践交流	深川市
5	10月16日	予算要望資料交流 1	深川市
6	12月11日	予算要望資料交流 2	深川市
7	1月13日	冬季一日研 予算要望資料交流 3 全体レポート検討	深川市
8	2月19日	全体レポートのまとめ 課題の整理と確認	深川市

時刻は一日研以外基本 14:30～17:00

会場は深川市（生きがい文化センター会議室）

前年に引き続き発表を控えていたため、6月中旬の管内事務研までは、1年次のレポート内容の検討（反省）を中心とし、管内研終了後は2年次研究のとりくみを中心に進めました。2015年度は、①前年度と同じくそれぞれが取り組んだ内容がさらに周りの会員の日常実践につながるための研修会とする②実務研修や情報の交流も重要なので、その時間も設定する。③一日研修は夏季・冬季の長期休業中に設定するとし、何れにしても北地区で研修した内容がそれぞれの学校できちんと実践検証することに重きを置いて始まりました。

引き続き参加率はほぼ 100%近く、久しぶりの新採用者2名、期限付き職員の合計3名が北地区協議会への加入により、より一層研修会の雰囲気が良くなりました。これまで交流できなかった学校の情報も交流できましたが、若い会員の育成のために新採用者向けの事例研修にもう少し時間をとるべきだったところが反省に挙げられます。

4. 私たちのとりくみの根底にあるもの

五項目業務にとらわれず、「領域としての学

校事務」が提唱されてから各地での財政財務、教育情報のとりくみや実践報告に学びながら、それぞれの地域での研究テーマとなってきました。

北地区でも予算要望のとりくみ 予算要望書づくり（数字を通して子どもの姿がみえる）、予算の公開・民主的な予算執行の在り方、保護者負担軽減のとりくみ、学校徴収金の見直し などのテーマで、地区研修をすすめてきました。

それはやはり学校事務の中心的な課題は学校における教育の目的を達成するために必要な課題や要求・要望にそって、教育行政と連携して整備や確立をし、こどもの教育権を保障していくことが事務職員の担うべき領域・分野だと感じてきたからなのだと考えます。

これらを追求していく手立てとして大きく2点

①教育権保障のための学校財政・財務の確立。

そのための現状把握と行政に対する要望活動、および学校における財政（予算）の企画展開

②教育的な情報収集、理解と活用、伝達（発信）に分けるなかで自分たちの業務を追求してきました。

長い時間をかけて「熟成」された「領域としての学校事務」は好き嫌いの差があったり属人的、と言われる場面はありますが、我々の根底にあるものは意識せずとも子どもの教育環境整備や教育権の保障をめざしているところにあり、「領域」実践そのものなのです。

学校にいるからこそできること、しなければならぬことを形づくっていく作業こそが重要なのだと思う意識を持続させながら、我々の研修会のとりくみがありました。これからもこのスタンスは変わることはありません。

学んだあとに自分が何を進めていくのかを考えることが2歩目につながることを常にみんな意識し研修をすすめてきました。

5. 学んだことをそれぞれのとりくみへ

2年次の研修は先ほどの一覧で紹介しましたが、各会員の持ち寄る資料による学習、交

流は参考になることが多く、次は自分の学校でも実践しよう…という流れになるのが望ましいものの、今までとりくみをしていなかったことを進める・方法を変える・見直すということには労力が必要であり、職場でのコンセンサスも得られないこともありがちです。

いざ取り組もうと思っても、年度反省を受けて、新年度の計画を経て、時間もかかりません。とはいえ、少しずつの歩みでも今取り組むことにより10年後には変化・結果がでるかもしれないという思いで今までとりくみを続けてきました。

今回の資料では残念ながら事務運営計画の見直しの報告はありませんでしたが、

- ① 予算要望のとりくみ
 - ② 校舎営繕等のとりくみ
 - ③ 事務だより等の取り組み
 - ④ 子どもアンケート
 - ⑤ 事務職員として過ごして感じたこと など
- いろいろな角度からの取り組み資料が提出されました。

6. 課題とまとめ（北地区研修での協議のなかから）

（1）予算要望書づくり

財源の潤沢な自治体とそうではない自治体があり、予算のシステムの違いなどからなかなか問題点を共有できないが、深川市以外には細かな積み上げ方式での予算要望書づくりを進めており、ヒアリングなどがしっかり行われている町も多い。深川市では備品要望と営繕要望だけの提出が予算要望として位置づいているため、需用費などの予算要望へどうやってつなげていくのが課題。

そのためには校内の配当予算の決算書等を作り、必要経費の洗い出しや見直しをすすめることが第一歩。市教委からの提出要請が管理職宛てにメールが届くことから、事務職員の業務ではないという学校や、そもそも事務職員が関わっていない学校もあるが、事務運営計画の見直し（年度末反省等）で関心を持ってもらい、積極的にかかわっていくことが大事である。予算要望を求められていない場合でも校内のお金の流れを把握するためにも他町の要望書をまねて作ってみる、求められて

いなくても勝手に作るなどもあるのはいいのでは。（提出するかどうかは別として。）

市内サークルでの統一要望事項など、各学校が統一して要望内容載せるなどをはじめてはどうか。

保護者負担の実態を探ることも時間はかかるが課題として挙げられる。

（2）校舎営繕のとりくみ

学校で業者から見積もりをもらい添付する町がある一方、ただ項目を記入して提出する学校まで、対応はさまざま。教育環境の充実を意識した営繕要望や現状の把握のためのヒアリングなども実施されるような働きかけが必要。

教頭と連携しながらでもいいので、事務職員としてのかかわりを定着させていく方向で取り組んでみる。

（3）事務だより等のとりくみ

保護者向け事務だよりのとりくみを進めている学校では、連携して小中で発行してみるなどはどうか。職員向けは職員の人数などで必要性を感じない場合もあるが、目まぐるしく変わる法令や制度、給料にかかわる情報、休暇などの情報提供はこの研修会の中でも役立つ内容が多い。

小中連携で発行する、ひな形づくりなどをしてみるなど、事務職員からの発信という場面や機会を多くしていくことも必要。

（4）子どもアンケートのとりくみ

北地区内では数校で実施されている。予算要望につなげる学校もあり、子どもの意見表明をどこまでくみ取ってあげられるかが課題。校内での理解や承認も必要になってくるので、学校経営計画に載せるなどの準備期間も必要。

（5）その他

領域実践というと、すぐにはとりくめないという方々もいますが、

- ① 学校の予算を通して教育環境の整備をすすめる
 - ② 保護者負担軽減の視点を持って考える
 - ③ 子どもにとって過ごしやすい空間としての学校をどう作っていくか意識すること
- などは、やはり学校事務職員の責務であると思います。

この3点のことは年8回の研修会を通して

常に語られてきたことであり、学校事務にかかわっている私たちは実際に意識していなくてもほとんどの人たちが「領域としての学校事務」にとりくんでいると思われるので、この立ち位置を全員の共通意識にしていきたいと考えます。

学校間連携については、意識することなく領域の集団的展開をすすめていくこととおさえています。具体的には事務運営計画（二本立て）に学校間連携を明記する、定期的な会議（協議会、サークルといった論議する場）の開催をし、連携を手立てとして課題解決をすすめる。

連携して何かをするのでなく、「学校づくり」や「教育環境整備」をするために連携してみる。などを目指して研修を行ってきたつもりです。

7. おわりに

市町の状況、財政のシステム等様々な違いはあるものの、1市5町で領域を集団的に展開し、より「深化・発展」させるための協議会の研修でありたいと考えてきました。

課題は山積、全然整理されず、学校は子どもにとっても大人にとっても大変居心地の悪い空間になっています。

今更新しいことに取り組みたくないという人もいないわけではありません。そのことについては学校全体に寛容な空気がないことも影響しています。

しかし、学校に事務職員が配置されている意義を今一度再確認することが必要です。

子どもの教育権を保障し、よりよい教育環境の充実をすすめるのは、「学校にいてこそその学校事務職員」でなければできないことです。

全国的な学校事務の動きは「事務処理業務の効率化や集中化」へすすんでいます。私たちは学校組織の中で、「協力・協働」の学校づくりの中にこそ、学校事務職員の職務はあると考えます。

着実に一歩ずつ学習をすすめたつもりであるものの、これが正解というものが見つけられないのも事実です。属人的ではなく、領域

を集団的展開めざし、これからもすすんでいけたらと考えます。

そのためには、机上の論議に留まらず、日常の子どもの表情を汲みとることも大切です。

ただ、それが強制的ではなく（強制されて行うことは長くは続きません。）、各人の自発的行動を伴ったものであることが理想です。

また、これからは若い人たちが大量に採用される時代が到来します。

積み上げたものを若い方々にどのように伝承していくかも課題です。

管内研で「領域としての学校事務」を語った際、その場にいた新採用の方々の面々がまったく関心をひかない表情（～何を言ってるんだか??～）が非常に印象的に記憶に残っています。

この状況からどうやって後進を育てていくかも、我々の責務として考えねばなりません。

ともに働く仲間が集まり～学ぶことはとりくみの一歩～を合い言葉にこれからもすすんで行けたらと思っています。